

2018/10/02 第六回勉強会の記録

「番町の町並みを守る会」第六回目の勉強会が10月2日19時より、二番町のグロービス経営大学院で行われました。

会場には、80名近くの番町住民がつめかけ開始前からご参加のみなさまの熱い想いが会場に溢れていました。

今回のゲストスピーカーは、グロービス経営大学院の堀義人学長（一番町に居住）と中原秀人さん（一番町に居住）。

日々、番町にとっても愛着をもって暮らしておられるお二人です。

海外での豊富な生活体験とともに、いま、私たちが直面している日テレ再開発問題について、さらっと、でも本音で、楽しくしっかりと語っていただきました。会場は熱気に包まれ時には笑い声も響き、終始和やかな雰囲気であったという間の2時間半でした。

以下、堀義人さんと中原秀人さんのお話の要旨をご紹介します。

聞き手は、守る会の大橋智子がつとめました。

大橋：堀さんはアメリカで留学生活を送られ、現在は番町で奥様や5人のお子様たちと生活しておられるわけですが、番町で暮らしはいかがですか？また、今回の日テレ再開発問題については、どう感じておられるのでしょうか？前回9月の「日テレ沿道まちづくり協議会」では、関係者として出席され、ご発言されたと思いますが。

堀さん：20数年前から番町で暮らしています。番町が気に入っているから、自宅は一番町、職場は二番町です。愛着をもって家族と暮らしています。

今回、日テレ再開発のことを（実は子供たちの父兄から）聞き、大変驚きました。寝耳に水のような話でした。この狭い道幅に高層ビルが建つなど、ありえない話です。

アメリカでは、住民運動が政治を動かしていきます。住民が開発計画などまちづくりのプロセスに関与し、政治もそれを考慮します。また、アメリカのそれぞれのまちでは、町並みに個性があり、地区計画がしっかり守られています。

私は、150メートルの高層ビル建設の話に大いに違和感を感じ、自分なりに、即、動きました。区長にも会いましてし、町会長さんにも会って話を聞きました。

また、日本テレビにも会って事実確認をしました。日本テレビは本社は戻って来ないが、企業として利益を得るための不動産開発を考えている、ということでした。

それぞれの人が、この再開発問題について、その人なりに動くことが大切と思います。住民自身が、千代田区に対して電話や手紙などで意思表示をする、発言をして行くことは、日本テレビにも千代田区にもボディーブローのように必ずや効いてきます。ぜひ、みんなで、みんなが好きな番町の町並みを維持して行くために声をあげて行きましょう。

中原さん：以前にロンドン勤務の経験があります。ロンドンのまちは、大体30Mの高さで揃えられています（パリも同様）。高層ビルは、都心ではなくシティ東寄りの再開発地区にあります。当時、私がお付き合いしていた会社がセントポール寺院近くにビルを建設したときのエピソードを紹介しますと、企業がビル建設の意思を表明したら、即、専任の行政官が配置され、その担当者と詳細にわたり厳しくやりとりをしなければなりません。厳しい高さ規制はもちろんのこと、建築物にはセントポール寺院と同じ素材を使うこと、さらに、建築物の隙間から必ずセントポール寺院が見えるように、などと強制的な指導がありました。新規の建築物は、いまある町並みを壊してはならないのです。

私は長く企業にいましたので、日本テレビさんが株主や会社のために利益を獲得して行く、ということは十分理解するものですが、今回の再開発の内容や経緯に違和感を覚えます。というのも、こういう場合、ブレーキをかけるのが行政の役目のはず、それは一体どうなっているのでしょうか？

千代田区の人口は5万人。そのうち、15,000人が番町地域で暮らしています。注)1
その9割がマンション住民だということで、私もその一人ですが、日テレ再開発がこのままの構想案でなされた場合、番町が閑静な住宅街ではなくなってしまふ、という大きなダメージを受けるということが容易に予測されますね。現在の基本構想案では、長期的に見るとこの町を良くするどころかこの町の価値を下げてしまうものだと思います。

大橋：みなさん、平成10年に制定された都市マスタープランを読んでみてください。

（千代田区ホームページ

<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/machizukuri/toshi/kekaku/m-plan.html>)

そこには、しっかりと、「都心を楽しみ、心豊かに住まうまち・都心に培われ

た魅力を高め、ともに未来へと歩むまち」だと明記されているのです。

堀さん：地区計画が遵守され番町の特徴である歴史ある文教地区の環境が守られ、住居にも適しているという納得できるよい都市マスタープランですね。それに沿った開発を望みます。現在の協議会では、行政・町内会長・日本テレビが主たる決定機関となっており、住民が強く声を挙げない限りはイエスととられてしまう。千代田区にも住民みんなで強い声をあげる必要がありますね。

中原さん：バリアフリーと広場は150メートルの高層ビルでなくても、50メートルや60メートルの高さのビルでもやるべきことですし、やれることです。

日本テレビはメディアという公器です。善良なマネジメントを期待しています。

今後この町で自分がやりたいことを最近考えるようになりました。一方通行で歩行者と車を分ける、そして町内あるいは番町全体でマンション住民が賛成するようなことをこれを契機にやってみたい。皆さんと交流し、番町自体を良くしたいと思っています。

このほか会場から、日テレ再開発計画において交通負荷についてちゃんとした調査を求めるとの声が上がりました。また、さいたま市で話題になっているドミノマンションの現状の話も紹介され、高層ビルによる開発は資産価値を下げるという指摘がありました。

最後に、堀さんと中原さんから「番町の町並みを守る会にとらわれず、それぞれの住民が、これを契機に、このまちがよりよいまちになるよう活動して行きましょう。みんなの声が届いていいまちになると思うとワクワクする！みんなで、番町のこれからの町のイメージを膨らませませせて欲しい」というメッセージがありました。

参加者一同が、気持ちを明るく大きく膨らませ、前進した貴重な勉強会となりました。

完

注)1 千代田区住民基本台帳 H30.9月1日現在によると、千代田区の人口は62,945人。番町地域(一番町から六番町・麴町三丁目・四丁目及び九段南四丁目・九段北四丁目)の人口は16,974人：(番町の町並みを守る会事務局調べ)